

■小野岑守 征夷家系の中級貴族官僚ながら施政者として傑出、漢詩に優れ、空海とも親交があった嵯峨朝文人の代表的人物。

おののみねもり

..... 778= 近江國小野村を本拠とする\_小野妹子の末裔で、征夷副將軍小野永見の三男に生まれる。

桓武天皇即位 781= 3歳 :

..... 787= 9歳 :

平安京遷都・ 794=16歳 :

..... 796=18歳 :

大事業中止・ 805=27歳 : 拔擢されて権少外記となり、初めて任官。

桓武天皇没・ 806=28歳 : 春宮少進に出世、賀美能親王(嵯峨天皇)の侍読となり、

伊予親王の変 807=29歳 : 観察使の新設にともなって畿内観察使判官となる。

嵯峨天皇即位 809=31歳 : 嵯峨天皇即位の日に従七位上から従五位下に叙せられ、まもなく式部少輔に任ぜられる。

葉子の変・ 810=32歳 : 藤原葉子の変の時に近江介を、

..... 811=33歳 : この年、文屋綿麻呂により、なんとか蝦夷が平定される。

..... 812=34歳 : この年、天皇が“花宴”を復活。\_不破関のある美濃守を兼任、

..... 813=35歳 : 従五位上に叙せられ、

凌雲集・ 814=36歳 : \*天皇の命を受け、大先輩賀陽豊年の助言を求めて、最初の勅撰漢詩集「凌雲集」を撰進。

..... 815=37歳 : \*代々征夷に関わる家系として、陸奥守となり、息子篁を伴って多賀城に赴任するなど、防衛上重要な任務も続く。この時、空海から送別の詩を贈られているように、尊敬しながら親交、

..... 816=38歳 : 現地にあっても天皇の不予に際し、見舞いの詩を贈り、

..... 817=39歳 : 離反して止まなかった倭吉弥侯部等波醜らを服属させているように、武力も本物であり、また、彼らに接するに、人道的な情愛あふれる人物でもあった。

..... 819=41歳 : 正五位下。\*征夷の体験をもって5年ぶりに都に帰り、以後、「日本後紀」の編集に参加。

弘仁格施行・ 820=42歳 : 阿波守兼\_治部大輔となって、再び朝政に参画、

冬嗣右大臣・ 821=43歳 : 従四位下。橘嘉智子の\_皇后宮大夫を兼ねる。この年撰進の「内裏式」の編集者の一人。

最澄没・ 822=44歳 : 参議に昇進し、皇后宮大夫・治部大輔・近江守に加えて、大宰大貳を兼ねると、

嵯峨上皇・ 823=45歳 : 穫稻を池澤・官舎の修理料に充てて凶作に備えるべく、大宰府管内に4年を限って公營田の設置を申請し、実施される。

..... 826=48歳 : 従四位上に叙せられ、

..... 828=50歳 : 大宰府に続命院(行旅の病人のための療養施設)の設置を建議し認められた後、大宰大貳の任務が終わり、勘解由長官・刑部卿を兼ね、官人や民衆の裁判を担当。

..... 830=52歳 : \*体調悪いなか、出雲大社に関わる神事に際し、朝堂で長時間直立せざるを得ず、倒れて、没した。「凌雲集」に十三首、「文華秀麗集」に八首、「経国集」に九首が残っている。